

作文の講評

ユネスコ作文審査員代表 高崎市立佐野中学校 品田京子

『高崎ユネスコ作文集』は、昭和四十九年三月に第1号が発刊されて以来、平成二十九年で四十五回目の発行となりました。

今年度も、高崎市内の児童生徒から、世界平和を願い平和の心を育てる内容の作文を公募しましたところ、小学校は四百八十八編、中学校は五百三十六編、計千二十四編の作文が寄せられました。小学校からの参加校数は年々増えていますが、今年度も中学校からの参加校数が少なかったのが残念でした。

応募作品は、十六名の審査員がそれぞれの作品を精読し、慎重に審査を行い、本作文集の掲載通り、小学校三十六点、中学校二十九点の優秀作品を選定いたしました。

応募作品の題材は、世界平和、国際理解、国際協力、日本や地域の伝統文化継承、環境問題やボランティア活動など多方面にわたっていましたが、今年度は、特にボランティア活動への意欲を題材とした作品が目立ちました。内容については、自分の身近に起こったことや家族とのふれあい、伝統文化に関わる体験、メディアで取り上げられた内容等を基に、平和を願い、よりよい世界や社会のために何ができるか、自分なりに考え、自分の言葉で発信していこうとする作品が数多くありました。どの作品にも、子どもたちのエネルギーや創造性、自発性が感じられ、審査員に未来への希望と力を与えてくれました。子どもたちの純粋な平和への希求を私たち大人がしっかりと受け止め、平和な社会を築いていかなければと改めて痛感しました。

第四十五回『高崎ユネスコ作文集』が、次代を担う子どもたちに国際協力の精神を養い、平和の心を育てる一助になることを念じるとともに、応募にあたりご指導いただきました各学校の先生方や審査にご尽力くださいました高崎市小中学校主任会、関係各位のご協力に、心から感謝を申し上げます。